

2016年10月24日

化学工学会 第48回秋季大会（2016年9月6日（火）～8日（木）、徳島大学にて）

シンポジウム＜材料・界面部会 晶析技術分科会＞

「【材料・界面部会シンポジウム】(3)晶析技術の実践的チャレンジと最新動向」

報告書

オーガナイザー

滝山博志（東京農工大学）

前田 光治（兵庫県立大学）

五十嵐 幸一（大阪市立大学）

日野 智道（三菱レイヨン(株)）

本シンポジウムは全て公募によるもので、合計17件の講演発表が行われた。本秋季大会の初日に開催された。大学から15件、高専から2件の発表が行われた。オーガナイザーに企業の方に入って頂き、企業からの発表を促したが、ほとんどが大学からの発表となっていた。しかし、質疑の時間には多くの企業研究者からの質問が寄せられ、活発な意見交換ができた。本シンポジウムの特徴として、バイオ晶析関連の発表が3件、晶析場を限定した研究発表が2件、準安定領域に関する発表が2件あった。

今回も発表12分、質疑7分（交替1分）であることは事前に案内できていたと思われ、ほぼタイムテーブル通りに発表を進行できた。会場には多くの企業研究者が参加しており、具体的な研究の応用例などを確認する質問が特徴的であった。質疑時間が8分であったため、特別に総合討論の時間を設けなくとも、8分の時間内に議論できたと思われる。

以前の秋季大会では、分科会独自でシンポジウムを開催しているようなシンポジウム名称となっていたが、本秋季大会からは、材料・界面部会の一つのシンポジウムとして開催していることがわかるような名称となっている。

大会実行委員会の推奨通り、セッションの間に20分の休憩を挟み、タイムスケジュール的には余裕のあるスケジュールであった。また座長に関しては、1セッション1名としたが、特に支障なく発表の進行は行えた。

以上